

たぶせの子育て応援団 ～秋季大運動会を終えて～



今年度の小中学校の『秋季大運動会』は、新型コロナウイルス感染症の影響で午前中のみの開催となりましたが、その中でも児童生徒たちは保護者の皆さんに例年と変わらず、息の合った表現競技と熱い戦いを繰り広げた個人・団体競技を披露することができました。

今回は、田布施西小学校の教員と児童からコメントをいただきました。

【田布施西小の教員より】

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまな制約のある運動会でした。特に大きく変更しなければならなかったのは応援合戦です。本年度は大きな声を出すことができるのは応援団のみとしました。

そのため応援団の5・6年生は精一杯の大きな声を出し、工夫を凝らして応援を盛り立てました。他の子ども達は機敏な動きや大きな手拍子などで頑張る気持ちを表現しました。

例年のようにみんなで大きな声を出して応援することとはできませんでしたが、赤組も白組も心を一つにして素晴らしい応援合戦を披露し、スローガンどおり『みんなが輝く運動会』にすることができました。



【田布施西小の児童より】

今年は『3密』を避けるために組体操ができませんでした。その代わりに、集団行動やダンスなどでメリハリのあるきびきびとした動きをして『静と動』を表現しました。

自分の家族や見てくださる方に感動を届けることを今年の運動会の目標にしていきました。

小学校生活最後の運動会は、残念ながら新型コロナウイルス感染症防止のため午前中しかできませんでしたが、これまでの努力を見せることで感動を贈ることができたと思います。



私たちと人権シリーズ No.138

外国人住民と

共に支え合って

公益財団法人

山口県国際交流協会

田中 沙織

当協会は平成2年の設立以降、

県民の国際理解の促進や、外国人住民の生活のサポートなどに取り組んでいます。日本に住む外国人数は年々増加し続けていますが、法務省の統計によると、令和元年12月末時点で山口県には1万7892人（県民の約1.3%）、田布施町にはベトナムやフィリピンなど71人の外国人の方が住まれています。

外国人の方には外国語で話しかけなければとイメージされる人もいらっしゃると思いますが、ほとんどの人は、簡単な日本語であれば理解ができます。コミュニケーションには、『やさしい日本語』をご活用ください。『やさしい』には『優しい』と『易しい』の2つの意味があり、阪神・淡路大震災の

際に外国人に情報が十分に伝わらなかったことから、提唱されるようになりました。例えば、『高台に避難』を『高いところに逃げる』、『土足厳禁』を『靴を脱ぐ』といった言葉に言い換えることで、より伝わりやすくなります。外国人だけではなく、高齢者や障がい者、子どもにも分かりやすい情報伝達の手段として、注目されています。

外国人住民が生活で困っている場面があれば、当協会内にある『やまぐち外国人総合相談センター』までお気軽にご連絡ください。19言語に対応し、日本人の方からのご相談も受け付けています。

熊本地震や西日本豪雨などでは、被災家屋の片づけや炊き出しなど、外国人が支援者として活躍する場面も多くなりました。人口減少や高齢化が加速する中、日本人も外国人も同じ地域で暮らす住民として共に支え合いながら、多様な担い手が活躍できるしなやかな地域づくりが今まさに求められていると感じます。

◆連絡先 やまぐち外国人総合相談センター

☎083・995・2100